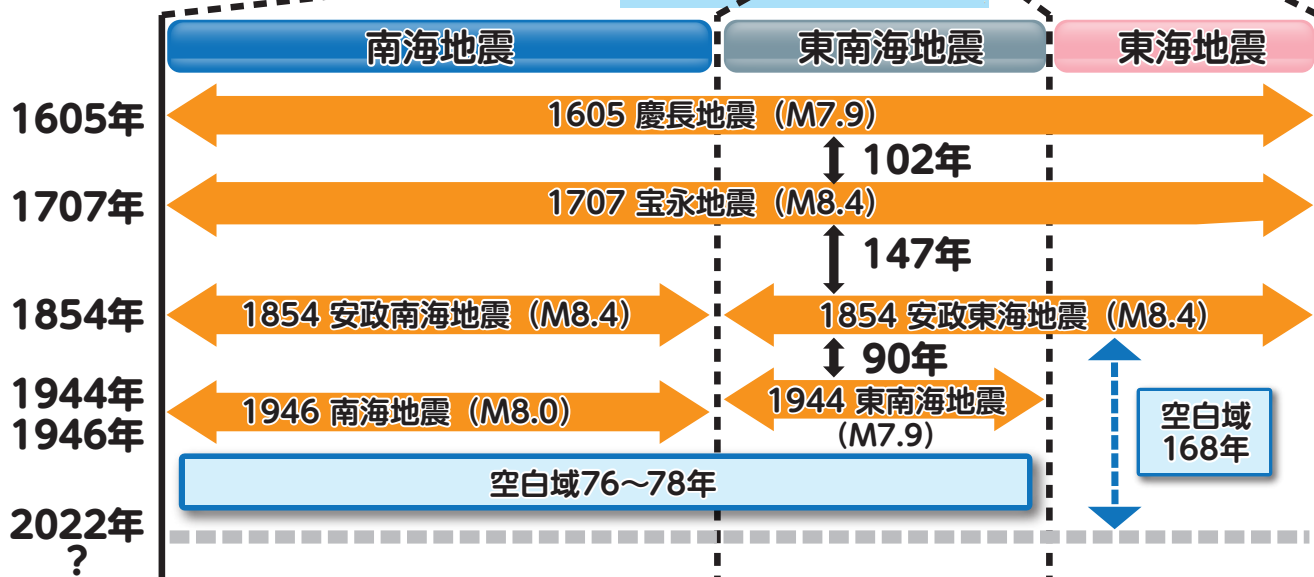


南海トラフ地震に関する情報

南海トラフ地震は、駿河湾沖から日向灘沖にかけてのプレート境界を震源域とする、概ね100～150年間隔で繰り返し発生してきた巨大地震です。特に、東海地震の震源域とされる駿河湾沖から御前崎沖にかけては、1854年に発生した「安政東海地震」から160年以上大きな地震が発生していません。地震の空白域となっているため、プレートの境界付近は蓄積されたひずみが限界まで達している可能性が高く、地震発生危険性、可能性が高まっています。

概ね100～150年の間隔で
大規模地震が発生



豊山町の被害想定

南海トラフ地震が発生した場合、愛知県の被害想定で設定した「過去地震最大モデル」「理論上最大想定モデル」のうち、最も大きな被害が出た場合の被害想定です。

地震の規模	想定される被害	避難者数
最大想定震度 6弱	全壊・焼失棟数 約200棟	1日後 約50人 1週間後 約1,300人 1カ月後 約400人
	ライフライン機能支障 上水道の断水人口 約14,000人 電力停電軒数 約6,600軒	帰宅困難者数 約3,400～3,900人
		災害廃棄物等 約2,000トン

※冬の午前5時に地震が発生した場合を想定。

(出典:平成26年3月愛知県防災会議地震部会「愛知県東海地震・東南海地震・南海地震等被害予測調査」)

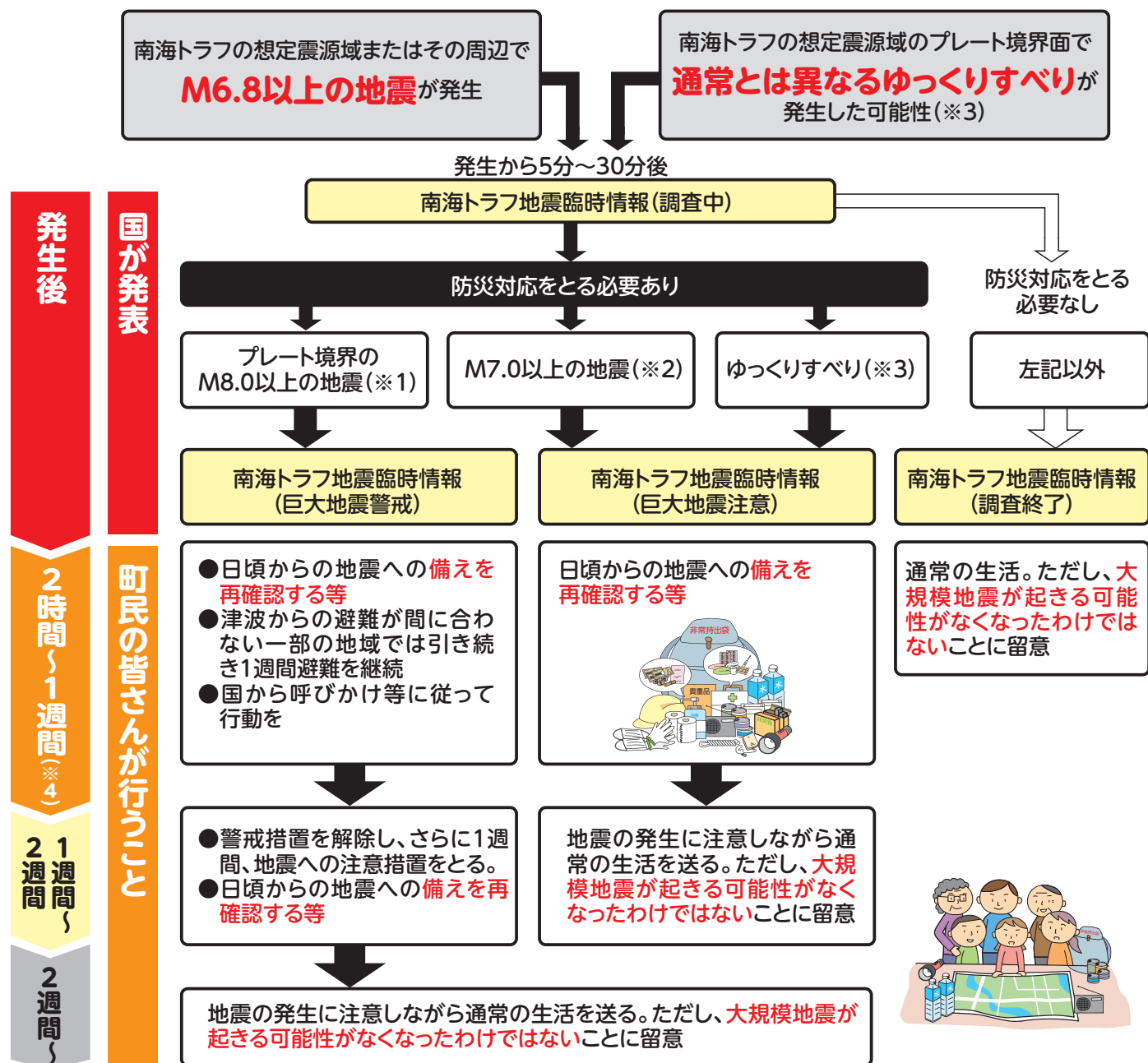


南海トラフ地震の長期評価による発生確率は、今後30年間で70～80%とされています。
(令和3年1月13日 地震調査研究推進本部による発表)

南海トラフ地震臨時情報

南海トラフ沿いの大規模地震発生の可能性が平常時に比べて相対的に高くなったと評価された場合に、気象庁から「南海トラフ地震臨時情報」が発表されます。発表後は国や町などからの呼びかけ等に応じた防災対応をとりましょう。「南海トラフ地震臨時情報」発表時の町からの呼びかけは、豊山町安心・安全メール等（P25 へ）を通じて行います。

地震発生後の防災対応の流れ



出典:内閣府・気象庁「南海トラフ地震-その時の備え」

- ※1: 想定震源域のプレート境界でM 8.0 以上の地震が発生した場合（半割れケース）
 ※2: 想定震源域、またはその周辺でM 7.0 以上の地震が発生した場合（ただし、プレート境界のM 8.0 以上の地震を除く。）（一部割れケース）
 ※3: 住民が揺れを感じることがない、プレート境界面のゆっくりとしたずれによる地殻変動を観測した場合など（ゆっくりすべりケース）
 ※4: ゆっくりすべりが観測された場合は、それが取まったと評価されるまで



豊山町は津波の影響は少ないと予想されている地域です。臨時情報が発令されたり、地震が起きた際には落ち着いて行動しましょう(P21へ)。